〈小学校　体育〉

安全な生活を営もうとする児童を育てる指導の工夫
ー「けがの防止」における課題解決的な学習と横断的な学習を通してー

糸満市立西崎小学校教諭　　仲　座　　正

内容の概要

安全な生活を営もうとする児童を育てるため，保健学習「けがの防止」の単元の中で課題解決的な学習と横断的な学習を取り入れた授業を展開し，学校での日常生活で安全な行動に結びつくような工夫をした。

その結果，学習カードを活用した課題解決的な学習で，けがの防止についての実践的な理解を図ることができた。また，学校での日常生活，学活，道徳等と連携した横断的な学習を取り入れたことで実践的な態度を育てることができ，安全な生活を営もうとする児童を育てることができた。

【キーワード】　課題解決的な学習　安全教育　実践的な理解　実践的な態度
横断的な学習

目　次

Ⅰ　テーマ設定の理由 ……25

Ⅱ　研究仮説と検証計画
1　研究仮説 ……26
2　検証計画 ……26

Ⅲ　研究内容
1　安全な生活を営もうとする児童の育成について……26
2　安全な生活を営もうとする児童を育てる学習指導の工夫……27

Ⅳ　授業実践
1　単元名……29
2　単元について……29
3　単元の目標……30
4　単元の指導計画……30
5　本時の学習……31
6　授業仮説の検証……33

Ⅴ　研究の考察
1　学習カードを活用した課題解決的な学習で実践的な理解が図られたか……33
2　横断的な学習で，実践的な態度を育てることができたか……35

Ⅵ　研究の成果と今後の課題
1　研究の成果……36
2　今後の課題……36

〈小学校　体育〉

安全な生活を営もうとする児童を育てる指導の工夫
～「けがの防止」における課題解決的な学習と横断的な学習を通して～

糸満市立西崎小学校教諭　　仲　座　正

Ⅰ　テーマ設定の理由

学習指導要領では

安全な社会を実現することは，すべての人々が生きる上で最も基本的かつ不可欠なことである。児童の安全についてみると，登下校時の児童に係る事故や学校の教育活動中での不注意によるけが等の起こる可能性があり，学校の管理下においても児童を取り巻く環境は必ずしも安全とはいえない。学習指導要領では「第５学年及び第６学年」の目標の一つに「けがの防止，心の健康及び病気の予防について理解できるようにし，健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。」と記されている。さらに，保健領域は，身近な生活における健康・安全に関する基礎的事項で構成されており，保健の学習を通して学校生活や日常生活における安全の大切さに気づかせることは重要である。したがって，保健の授業における指導方法の工夫改善に努め，学校の教育活動全体を通して安全教育に取り組む必要がある。

これまでの課題

これまでの保健学習における安全教育では，学習が知識や記憶としてのもので終わってしまいがちで，安全な生活の大切さに十分に気づかせることができなかった。その原因として，次の課題が挙げられる。

（教師の課題）
○安全な生活に対する課題を把握させるために自己の振り返り，具体的な自己評価の手だてが十分に行われなかった。
○児童が主体的に学習するための課題設定や課題解決に向けて見通しの場面と課題を解決していくための機会が十分に確保されなかった。
○実践的な理解に結びつける指導の工夫が不十分であった。
（児童の課題）
○安全に対しての生活習慣の影響やけがの防止に対する関心が低いこと。

このようなことから，保健学習に関心や意欲をもち，安全な生活を営もうとする児童を育てるために保健の授業や学校の教育活動全体を通じて，様々な角度からその解決に向けての取り組みを考えなければいけないと感じている。

本研究の取り組み

そこで，安全な生活を営もうとする児童を育てるために，「けがの防止」の単元と関連させて児童の安全な生活に対する実践的な理解を図り，実践的な態度を育てる指導の工夫改善を図りたい。

まず，実践的な理解を図るために，児童自身の生活の中から安全に対する課題を見つけ，その解決のために課題解決的な学習を取り入れる。学習カードを活用し，日常の生活習慣の中で安全に気をつけた生活を実践しているか振り返らせることで，児童自らの行動課題を認識させる。また，実地調査や実習も効果的に取り入れて実践的な理解につなげていきたい。

次に，実践的な態度を育てるために，保健学習「けがの防止」を核として位置づけた横断的な学習を取り入れる。朝の会・帰りの会で１日を安全に過ごすための目標設定をし，振り返りを行う。学級活動や道徳等では，けがの防止や安全な行動に対する指導を計画的・継続的に取り入れていく。横断的な学習を通して実践的な態度の育成につながるのではないかと考える。

よって本研究では，「けがの防止」における課題解決的な学習と横断的な学習を取り入れることで安全な生活を営もうとする児童を育てることができると考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究仮説と検証計画

1　研究仮説

保健学習において，以下の工夫を行えば，安全な生活を営もうとする児童を育てることができるであろう。

(1) 学習カードを活用した課題解決的な学習で，「けがの防止（5年）」について実践的な理解を図る。

(2) 学校での日常生活，学活，道徳等と連携した横断的な学習で，実践的な態度を育てる。

2　検証計画

対象児童　　：小学校５年　３２人

教科名・単元名　　：体育『けがの防止』

	検証の場面	検証の観点	検証方法
投入条件(1)	「けがの防止」単元における課題解決的な学習活動	学習カードを活用した課題解決的な学習は，けがの防止について実践的な理解を図る上で有効であるか。	・「実践的な理解が図られたか」については，学習カードと単元テストを基に分析する。 ・単元テストは 80 点以上の児童が 80%以上に到達したときを有効であると判断する。
投入条件(2)	学校での日常生活学活，道徳等における横断的な学習活動	学校での日常生活，学活，道徳等と連携した横断的な学習は，実践的な態度を育てる上で有効であるか。	「児童の安全に対する実践的な態度を育てることができたか」については，質問紙調査法を事前・事後に実施する。その際，データは数量化し，統計処理をして，有意差のある項目のみを有効であると判断する。
結果	課題解決的な学習活動，横断的な学習活動	けがの防止における課題解決的な学習と横断的な学習は，安全な生活を営もうとする児童を育てるために有効であるか。	指導計画に沿った全 10 時間の課題解決的な学習と横断的な学習で見た学習カードと単元テストの結果を基に分析する。

※有意差とは（統計学などで、それは偶然起こったものではないといえるかを検討した結果の差のこと。）

Ⅲ　研究内容

1　安全な生活を営もうとする児童の育成について

資質や能力の基礎

(1) 安全教育とは

安全教育は，児童が安全について必要な事柄を理解し，これらを日常生活に適用し，常に安全な行動が実践できるようにすることである。学校における安全教育は生涯にわたり，安全な生活を営む資質や能力を育てることによって楽しく明るい生活を営むための基礎づくりを目指すことが必要である。高学年の児童は，論理的な思考ができるようになる時期である。この時期に安全についての知識を習得し，日常生活の中で生かしていけるようにすることは，これからのよりよい生活を営む上で重要になってくる。

図１「安全教育の考え方」に示す通り，学校における安全教育は安全学習と安全指導を通して行われる。本研究では，保健学習を中心にした安全学習で児童に実践的な理解を図り，学校での日常生活や横断的な学習を通した安全指導で実践的な態度を育て，安全な生活を営もうとする児童を育てたい。

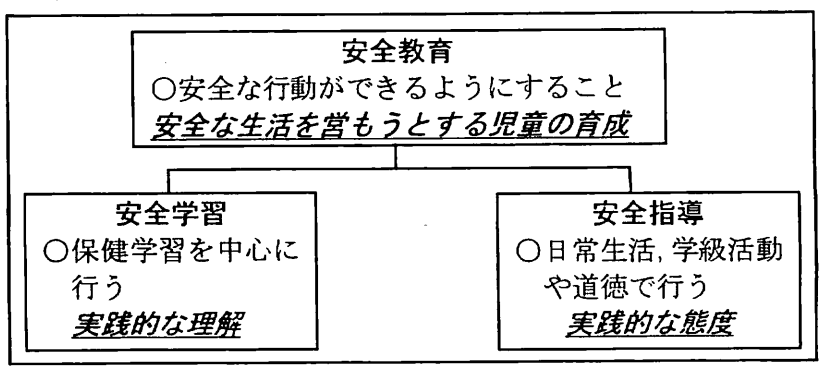


図１　安全教育の考え方

大切さに気づく

(2) 実践的な理解

実践的な理解とは，児童が自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，よりよく問題を解決していく過程を通して安全に過ごすことの大切さに気づくこと。そして，的確な判断の下に安全に行動することが必要であることを理解できるようにすることである。

中川（2005）が「知識の伝達だけでは具体的な成果を得ることは難しく，ややもすると机上の空論で終わってしまい，求められている課題の解決にはならない。」と述べている。実践的な理解を図るためには，これまでの用語の暗記や知識の量に中心をおきがちだった授業観や教科観を転換し，児童が主体的に学習できる課題解決的な学習を取り入れていく必要がある。

(3) 実践的な態度を育てる

実践的な態度とは，生涯にわたり健康を保持増進し，安全な生活を送る資質や能力のことである。つまり，生活の中で実践しようとする態度「実践力」のことと解釈することができる。実践的な理解を図る保健学習と日常生活や領域を関連させる指導方法によって実践的な態度（実践力）を育てていくことができると考える。

2　安全な生活を営もうとする児童を育てる学習指導の工夫

(1) 安全な生活を営もうとする児童の育成の構想

けがの防止における学習は，保健の授業で４時間ないし５時間扱いとされているが，実践的な理解と実践的な態度を育てるためには不十分であるため，下の**図２**に示す学習を展開していく。

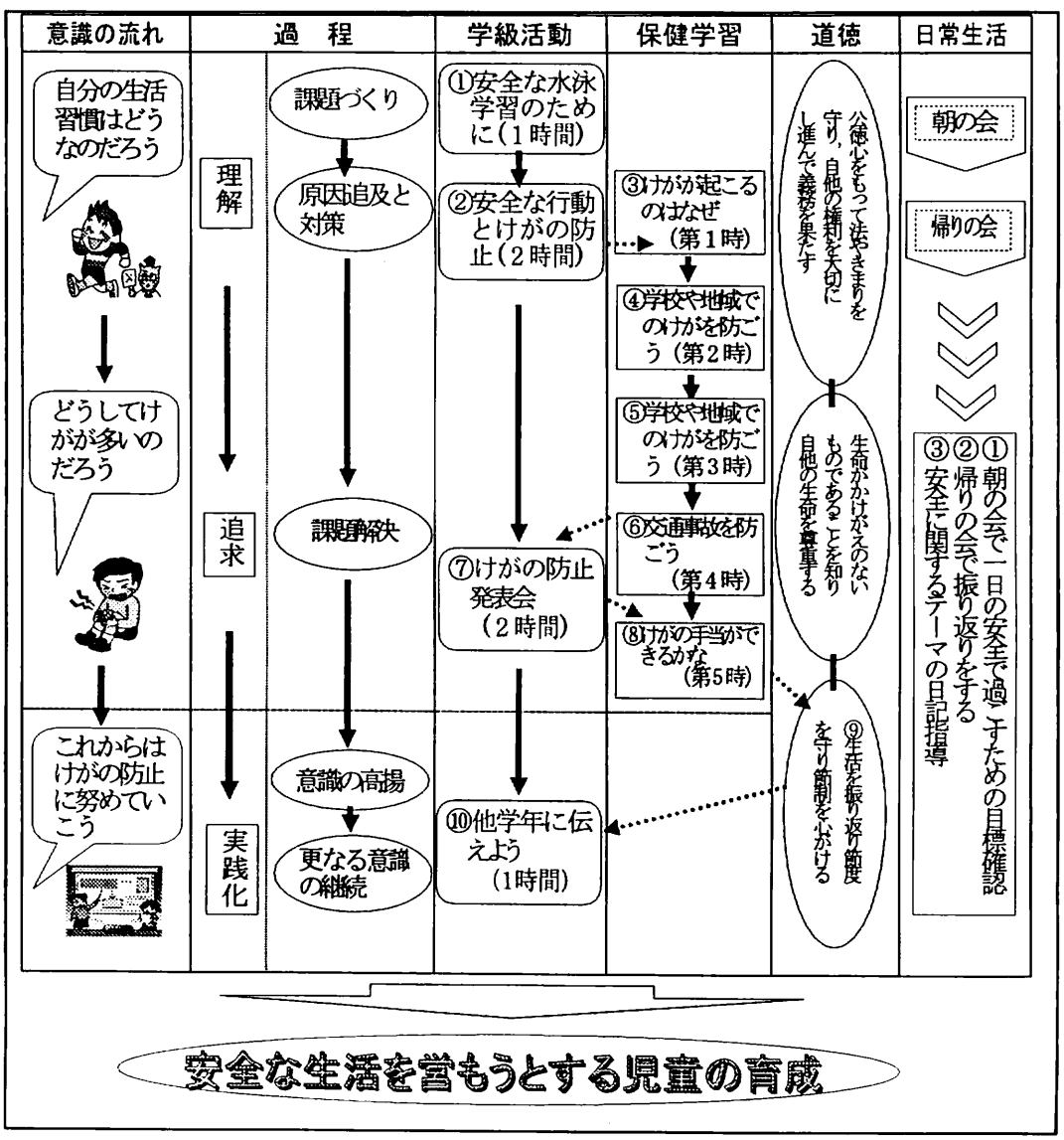


図２　安全な生活を営もうとする児童の育成構想図

学習指導の工夫

⑵ 実践的な理解を図る指導の工夫

学習指導要領において「学校における体育・健康に関する指導は，学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。（中略）また，生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない。」と規定している。その趣旨を受け，安全な生活を営もうとする態度の育成は学校の教育活動全体を通じて行わなければならない。そこで，学習カードを活用した課題解決的な学習で実践的な理解を図り，教科・領域をリンクさせる横断的な学習で，実践的な態度を育てていけるものと考えた。

学習の進め方

① 課題解決的な学習

課題解決的な学習とは，児童が自ら課題を発見し，解決の方法を主体的に考え，判断，行動し，よりよく課題を解決して学び得たものを情報発信していくといった学習方法である（図３）。

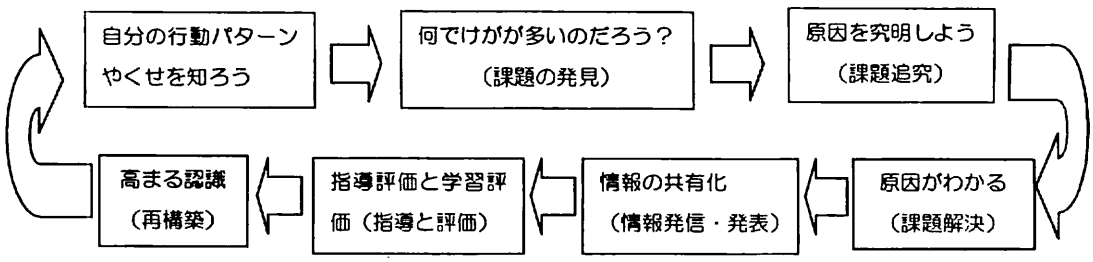


図３　課題解決的な学習の進め方

「課題を発見」する場面では，単なる興味・関心事だけでなくそれまでの学習の内容を踏まえながら，それをより深めていくための課題を見つけさせていきたい。「課題を追求する」「課題解決」の場面においては，その活動が単なる「百科事典の丸写し」にならないように指導していく。「情報発信・発表」の場面では，まとまりのあるわかりやすい発表を心掛けていくようにする。

② 学習カードの活用

学習カードの利便性

児童が学習カードを使い学習することは，自分（たち）の生活パターンや学習状況を振り返ることや課題やめあてをもたせるためにとても有効である。さらに，学習カードに書くことで，自己の振り返りができ，自分の考えが明らかになるので知の習得ができる。

関心・意欲を持たせる

そこで，まず児童が自分自身の生活行動のパターンやくせを見つけていけるように，学習カードを用いて，表１の行動評価の指標をもとに生活パターンの意識づけをさせる。生活パターンをチェックすることで，自分の生活行動を振り返ることができる。また，自分の生活行動を行動評価の指標に照らし合わせて数値目標を設定することで関心・意欲を持たせることができ，実践的な理解へと導くことができるのではないかと考える。

表１　行動評価の指標

		１点	２点	３点
学校生活	ろう下の歩き方	ろう下を走った。	走らずに右側をきちんと歩くことができた。	相手とぶつからないように，意識しながら，右側をきちんと歩くことができた。
	階段の昇り降り	急いで，階段の昇り降りをしてしまった。	急がないで右側を静かに昇り降りすることができた。	昇る人や降りる人を意識しながら，右側を静かに昇り降りすることができた。
	室内の過ごし方	室内で追いかけっこをした。	通り道でじゃまになるようなことがあった。	室内で静かに過ごしている人を意識しながら，過ごしている。
	ロッカーの整理整頓	整理整頓ができていない。	整頓しているが，ロッカーの荷物が取り出しにくい。	ロッカーの荷物が取り出しやすいように意識して，整理整頓している。

保健の時間

横断的な学習

(3) 実践的な態度を育てる横断的学習の工夫

安全な生活を営もうとする児童を育てるための安全教育の推進に当たっては，4時間ないし5時間の保健学習だけでは，細切れの指導になりがちで，学習指導が不十分になるなどの限界がある。そのために，学校の教育活動全体を通じて行う必要性があり，保健の時間を中心に捉えて，横断的に行うことが重要であると考える。

横断的な学習の「的」とは，保健学習を核とした学校での日常生活，特別活動道徳等での学習活動を示す。

図4に示すように横断的な学習は，保健の学習と様々な活動を積極的に連携させながら行う必要がある。そして，学校における安全に関する指導が日常生活の実践力にスムーズにつながるようにしていく。そのためにも保健学習と学校での日常生活，学級活動，道徳等の位置づけを明確にすることが重要になってくる。

図4　横断的な学習の実際

Ⅳ　授業実践

1　単元名

「けがの防止」

2　単元について

学習内容を身近にとらえる

(1) 教材観（一部省略）

第1時の「けががおこるのはなぜか」では，これまでに体験したことのある学校でのけがや交通事故を取り上げ，そのときの心情を話し合い，原因や防止の方法についての理解を図ることができるようにする。

さらに，第2・3時の「学校や地域社会でのけがを防ごう」や第4時の「交通事故を防ごう」では，実践につなげていけるように危険の予測ができることをねらいとしている。また，第5時の「けがの手当」では，簡単なけがの手当ができるようにすることをねらいとしていることから，学習内容を身近なものとしてとらえさせ，実践的な理解を図りたい。

(2) 児童観（省略）

(3) 指導観（一部省略）

保健学習の単元「けがの防止」を通して理解を図るために課題解決的な学習を取り入れ，効果的に学習カードを使い，シミュレーション（危険の予測）をしていく。自分の不注意だけとして捉えられている実態を克服させる意味からも行動の背景にある心身の状態や周囲の環境条件などにも目を向けさせていきたい。そして，身近な事故やけがの原因を多面的に分析させて，その防止の仕方を考えさせるようにしていく。

そこで，保健の時間（4～5時間）の指導では，不十分なため，横断的な学習を取り入れていく。

① 朝の会

朝の会を利用し，生活習慣を振り返るための学習カードを取り入れ，生活パターンの意識づけと安全に過ごすための目標を設定させ，自己のけがの防止に対する課題を捉えさせる。

② 学級活動において

これは保健学習の第1時「けががおこるのはなぜか」や第2時「学校や地域社会でのけがを防ごう」，第3時の「交通事故を防ごう」とリンクさせて，事故における典型的な事例から原因や予防方法を授業の中で考えさせていきたい。

③ 保健学習において

課題にもとづく資料やデータを図書館や養護教諭からの協力を得ながら集め，けがや事故に隠れた周囲の危険に早く気づき，的確な判断のもとに安全に行動するこ

とを実践的に理解させていく。そして，学び得たものを共有化していく。

④　道徳において

道徳の内容の「生活を振り返り節度を守り，節制を心がける」，「生命がかけがえのないものであることを知り，自他の生命を尊重する」，「公徳心をもって法やきまりを守り，自他の権利を大切にし進んで義務を果たす」をリンクさせ，安全に対する意識を高揚させる。

⑤　帰りの会

けがの防止に向けて，朝の会で目標設定したことを振り返らせることにより，意識を継続させる。

3　単元の目標

(1) 単元の目標

○交通事故，学校生活の事故などにおけるけがの防止には，周囲の危険に気付いて，的確な判断の下に安全に行動することや環境を安全に整えることが必要なことを理解する。

○けがをしたときなどは，速やかに手当をする必要があることを理解し，簡単な手当ができること。

(2) 観点別目標

○けがの防止について関心をもち，自ら健康で安全な生活を実践するため，進んで学習に取り組もうとする。【関・意・態】

○けがの防止について，課題の解決を目指して考え，判断している。【思・判】

○けがの原因とその防止について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し，知識を身につけている。【知・理】

(3) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
①事故やけがについて話を聞き，その例をあげたり，課題を見つけようとしている。 ②事故やけがの原因や防止の方法について，よりよい解決のために情報を集めたり，考えを出し合ったりしようとしている。 ③事故やけがの防止の方法について，友達の意見を聞いたり自分の考えや意見を言ったりしようとしている。 ④今までに自分が体験したけがについて，自分なりにどのような手当をしてきたのか，振り返ろうとしている。	①事故やけががどんな原因で起こるかについて，自分たちの生活を振り返り，問題点を見つけることができる。 ②課題解決に向けて具体的な生活場面や資料をもとに，けがの原因やその防止の方法を関連づけて整理することができる。 ③けがの原因やその防止について，自他の考えの違いやよさを見つけたり，自分の生活に当てはめたりすることができる。 ④けがの場所や症状に応じた簡単なけがの手当の仕方を確かめることができる。	①けがの原因について，人の行動や周りの環境が関わっていることを知っている。 ②けがの原因と防ぎ方について知っている。 ③簡単なけがの手当の意義や方法について知っている。

4　単元の指導計画

時間	学習内容・活動	教師の支援	評　価
1 (学活)	○けがの起こり方について知る。 ・けがは人の行動や周りの環境が原因で起こることがわかる。 ・人の行動は心の状態や体の調子と関係していることがわかる。	・身近な事例をもとにその起こり方について理解させ，私たちをとりまくいろいろなけがの中から自分の調べてみたいこと（課題）について見つけることができるようにする。 （学習カード）	・いろいろなけがの起こり方について理解できる。【知・理】 ・自分の課題を見つけることができる。【思・判】

2〜3（学活）	4〜7（保健）課題解決	○学校や地域社会でのけがを防ごう。 ○交通事故を防ごう。 事故における具体例から原因や予防法がわかる。	○グループそれぞれの課題について学校図書室・中央図書館やインターネットなどで必要事項を集めたり，学校周辺の交通事故について調べる。 【課題例】 学校でのけが ・交通事故 ・水の事故	・図書室の利用やインターネットの活用を上手にできるようにする。 ・安全面には細心な注意を払う。 ・事故を防ぐためには，危険を予測することが重要であることに気づかせ，学習カードに書かせる。 （学習カード） ・発表資料を集める際にはまる写しにならないようにさせる。（自分たちがわからないような言葉や難しい言葉は使わない）	・自分の課題に向かって意欲的に取り組んでいる。【関・意・態】 ・事故やけがの原因や防止の方法について，よりよい解決のために情報を集めたり，考えを出し合ったりしようとしている。【関・意・態】
8（前時）学活	9（本時）学活	発表会 ・これまでに安全課題について調べてきた事を発表し，その発表をもとにけがの防止についての理解を深める。 ・グループ同士で発表する。 【課題】 ○学校探検隊チーム 学校のけがについて ○ポトリスチーム 学校のけがについて ○調査隊 水の事故	【課題】 ○２gurupu チーム 交通事故について ○ドリームスチーム 学校のけがについて	・グループでの発表がスムーズに行えるよう事前に打ち合わせ会をもつ。 ・友だちの発表をもとに，事故を防ぐためには，次に起こる危険を予測することが重要であることと，けがを防止するためには，きまりを守り，危険に早く気づいて正しい判断をして，安全な行動をすることが大切だということに気づかせて学習カードに書かせる。（学習カード） ・けがをしない生活を送るために，これからの生活に生かしていきたいことを発表できるようにさせる。 （発表）	・グループが安全課題について発表したことを聞いて，その発表をもとにけがの防止について理解する事ができる。【知・理】 ・これからの生活に生かしたいことを考えることができる。【思・判】
10 保健		けがの手当 けがをしたときなどは，速やかに手当をする必要があることを理解し，自分でも簡単な手当ができるようにする。		・今までに自分が経験したけがについて，自分なりにどのような手当をしてきたのか，振り返ることができる。 ・簡単なけがの手当の意義や方法について理解させる。 （実習） ・簡単なけがの手当を自分でもできるようにさせる。 ・今日の学習を振り返る。（学習カード）	・自分なりにどのような手当をしてきたのか，振り返ることができる。【関・意・態】 ・けがの手当の意義や方法がわかる。【知・理】 ・けがの手当を確かめることができる。【思・判】

5　本時の学習

(1) 本時のねらい

グループが安全課題について発表したことを聞いて，その発表をもとにけがの防止について理解することができる。

(2) 本時の授業仮説

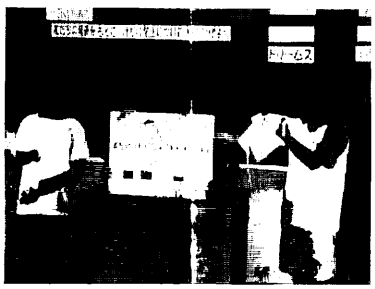
本時の学習で，以下の指導を工夫することで，けがの防止について理解することができるであろう。

① 発表の内容を聞いて，けがの防止における大切なことなどに気づき，学習カードに書くことができる。

② けがの防止について，これからの生活の中で，できることや生かしていきたいことを考え，学習カードに書くことができる。

(3) 本時の展開

	学習内容・活動	教師の支援 ○主な発問（　）助言方法	評価と留意点 ■仮説の検証（評価方法） ◇本時の評価（評価方法）
はじめ 4分	**1 今日の学習のめあてや活動について確認する。**	・発表や意見交換をして，そこから何を導き出すかを明らかにする。	・学習のめあてについて知る。
	めあて　友だちの発表をもとに，けがの防止（防ぎ方）について理解しよう。		
	・発表の仕方，感想や意見交換の行い方について確認する。	・発表の態度やマナーについて助言する。	・活動の仕方について知る。

なか 36 分	2各グループごとに発表をする。 ・けがの防止について理解を図るために，一つのグループが発表したら，感想や気づいたことを学習カードに書いて発表をする。（感想や気づいたことを述べる） 【課題例】 ・自転車事故によるけがについて （2GURUPU チーム） 「自転車事故と 血とばいきんについて」  ・学校でのけがについて （ドリームスチーム） 「学校でのけがについて」 	○今日は2グループが課題解決してまとめたことを発表してもらいます。 ○グループの発表が終わったら自転車事故を防ぐために大切なことは何かを学習カードにわかりやすく書いて下さい。 （支援1） ・書くことがスムーズにいっていない児童へ助言，援助をする。（言葉かけや本単元導入時の学習を振り返らせる。） ・学習カードに書く内容の視点を明確にして書かせる。 ○自転車事故を防ぐための大切なことを発表してもらいましょうね。　（2～3人） ・グループ発表を通して，発表内容を理解し，積極的に感想を言えるよう援助をする。（言葉かけ） ○学校のけがを防ぐために大切なことは何かをわかりやすく学習カードに書いて下さい。 （支援2） ・書くことがスムーズにいっていない児童へ助言，援助をする。（言葉かけや本単元導入時の学習を振り返らせる。） ・学習カードに書く内容の視点を明確にして書かせる。 ○学校のけがを防ぐために大切なことは何かを発表してもらいましょうね。 （2～3人） ・グループ発表を通して，発表内容を理解し，積極的に感想を言えるよう援助をする。（言葉かけ）	・グループが調べ学習を通して課題解決したことをめあてを持ってしっかり聞かせる。 ◇グループが安全課題について発表したことを聞いて，その発表をもとにけがの防止について理解することができる。【知・理】 ■発表の内容を聞いてけがの防止における大切なことなどに気づき，学習カードに書くことができる。 （学習カード）
	3学習を振り返り，これからけがの防止について生活の中でできることや生かしていきたいことを考える。	○けがの防止について生活の中で，できることや生かしていきたいことを考えて学習カードに書いてみよう。 ・書けない児童へ助言する。（言葉かけ）	◇これからの自分の生活の中でできることや生かしていきたいことを考えて学習カードに書くことができる。　【思・判】 （学習カード・発表）
	4これから自分たちが生活の中でけがを防ぐためにできることや生かしていこうと思うことを発表する。	○けがを防ぐためにこれからの生活の中でどのようにしていけばいいのかな？ ・（2～3人）に発表させる。 ・これから生活の中でどのようにしていけばいいのかを整理し，次時の活動に生かせるようにする。 ・友だちの発表を聞き，実践に向けた考えを共有化させる。	■けがの防止についてこれからの生活の中で，できることや生かしていきたいことを考え，学習カードに書くことができる。 （学習カード）
まとめ 5 分	5今日の学習を振り返って自己評価をする。 ・次時の予告	・今日の学習を振り返って自己評価をさせる。 ○次の時間はけがの手当をします。	・今日の学習を振り返らせる。

6　授業仮説の検証

授業仮説について表２の自作の評価基準表をもとに考察する。

表２　自作の評価基準表

	仮説①	仮説②
段階１	学習内容についての記述が全くない。	学習内容についての記述が全くない。
段階２	学習内容について具体的記述がなく，自分の気持ちのみ記入。（楽しかったなど）	学習内容について具体的記述がなく，自分の気持ちのみ記入。（楽しかったなど）
段階３	学習内容の何がわかったのかを具体的に記入。（どのようにしていけばいいのかわかった）	学習内容について生活につなげていくことを記入。（これから～していく）

授業仮説①の検証

気づく→32人

仮説①「発表の内容を聞いて，けがの防止における大切なことなどに気づき，学習カードに書くことができたか」

児童の記述内容を表２のように段階分けした結果が，図５である。発表の内容をしっかり聞き取らせるためには，要点をとらえてしぼりこんで書くことが大事である。書くことがスムーズにいっていない児童には，言葉かけや導入時の学習を振り返らせる支援をした。児童たちの学習カードには「自転車に乗るときは整備したり，確認をする」，「次に起こることを予測する」，「道路を横断するときは必ず左右確認をしてから渡る」などの記述が見られた。その結果，児童は，けがを防ぐための大切なことに気づくことができたといえる。

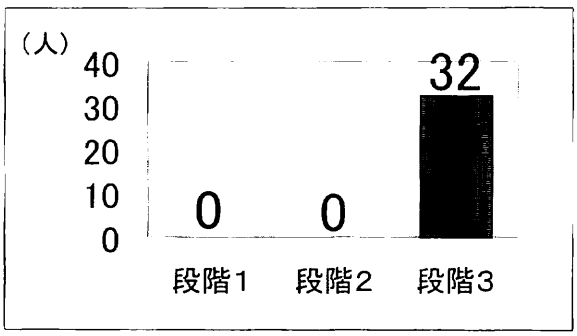


図５　仮説①学習カードの記述内容（32人）

授業仮説②の検証

できることと生かしていきたいこと→30人

仮説②「けがの防止についてこれからの生活の中で，できることや生かしていきたいことを考え，学習カードに書くことができたか」

図６からもわかるように30人の児童が，生活の中で生かしていきたいことを考えることができた。「けがをしないように，ろう下を走らないことを低学年に伝えたい」，「学校のきまりをきちんと守る」など積極的な記述も見られた。しかし，２人の児童は生活に結びつける記述ができなかったため，今後，常に生活の中で関わり合いを持ちながら意識させ，個に応じた指導を展開していく必要がある。

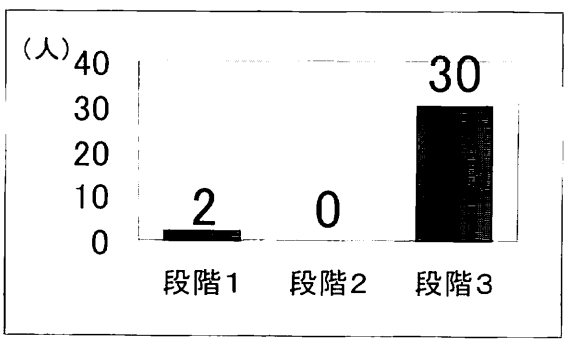


図６　仮説②学習カードの記述内容（32人）

このように児童は，身近なけがの発生場所で次に何がおこるのかを具体的に考え，発表したことを共有し合うことで，自分の生活に結びつけることができ，けがの防止の理解をすることができたと考える。

Ⅴ　研究の考察

1　学習カードを活用した課題解決的な学習で実践的な理解が図れたか

課題の認識

(1) 自己の行動課題を認識することができたか

児童全員32人が学習カードに行動課題を記入することができた。特に多かった例として「廊下の左側を歩いてしまって，ぶつかりそうになった」，「廊下を走ってしまい，ぶつかりそうになった」，「室内でおにごっこをしていたら，机に足をぶつけてしまい，とても痛い思いをしたので，静かにすごしたい。」，「階段を急いで下りてしまい，低学年の男の子とぶつかりそうになったので，気をつけないといけないと思った。」，「雨の日にろう下がぬれていてすべって転んでしまった。」などの記述が見られた。このような結果から，児童たちは事故やけががどんな原因で起こるかについて，自分の生活を振り返り，自分としての問題点を見つけることができたと言える（資料１）。

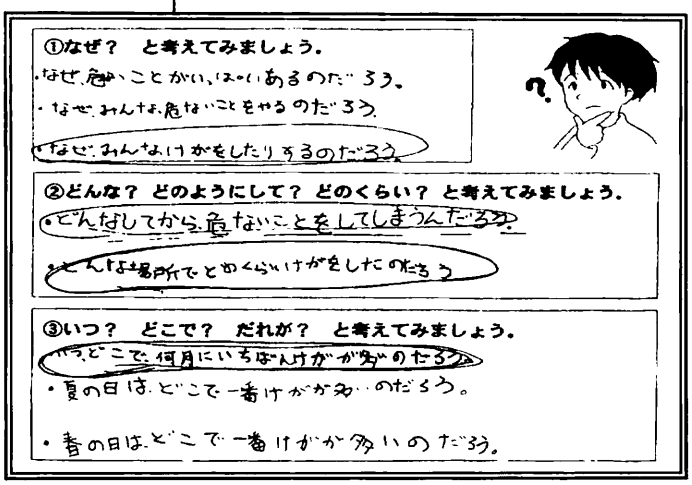
ろうかの左側を歩いてしまって3年生くらいの子とぶっかりそうになった。気をつけようと思った。

資料１　行動課題の例

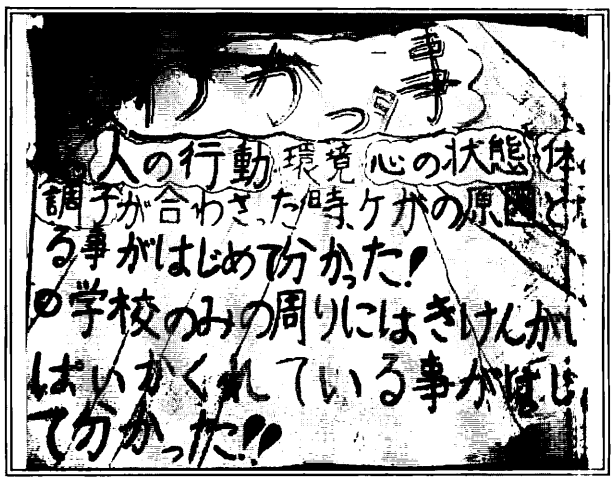
課題解決への取り組み

(2) 自己の課題を解決することができたか

「学校のけがはどのくらいあるのだろう？」とか「どんな場所でけがや事故はおこるのだろう？」など行動課題をさらに具体化させた結果，児童全員 32 人が資料２の記述に示すように課題解決に向けて取り組んだ。児童たちは課題を解決していく過程でけがを防ぐための大切な知識を学習カードに記録をし，資料３のように情報発信に向けてしっかりまとめることができた。このように児童全員が，具体的な生活場面や資料をもとに，けがの原因やその防止の方法を関連づけて整理して，生活に結びつくような課題を解決することができたと言える。



資料２　課題解決に向けて取り組んだ例



資料３　情報発信に向けてまとめた例

単元テストの到達度 80%

(3) 単元テストの結果から

第 10 時のけがの手当の学習終了後，単元テストを試みた結果，80 点以上の児童は，80%に及んだ（図７）。児童は，学習カードを活用し，けがの原因と防ぎ方について理解をすることができたと考えられる。

しかし，70 点以下の児童が６人もいることから，常に関わり合いをもち，個に応じたきめ細かな指導の工夫が必要である。

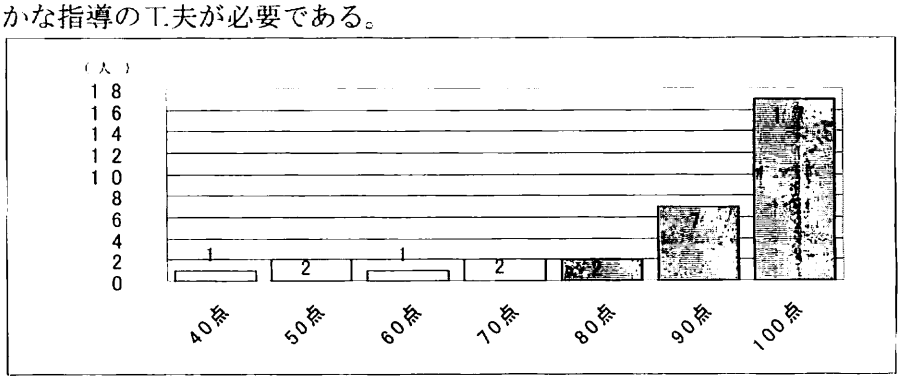


図７　単元末テスト結果（32 人実施）

実践的な理解

以上のことから，学習カードを活用した課題解決的な学習で「けがの防止」について実践的な理解を図ることができたと考えられる。

2　学校での日常生活，学活，道徳等と連携した横断的な学習で，実践的な態度を育てることができたか

学校での日常生活，学活，道徳等と連携した横断的な学習で，実践的な態度を育てることができたかについて，関連する４項目のアンケート調査を事前と事後で比較した結果，次の３項目について有意差がでて，その項目について手だての有効性が見られた。

(1) けがをしないように生活の中で気をつけているか

生活の中で気をつける

気をつけるようになった→10人

気をつけている→21人

下の図８は，けがをしないように気をつけているかの質問に対して，授業前と授業後の比較をした結果である。授業前に気をつけていると答えた21人全員が授業後もけがをしないように生活の中で気をつけていることがわかった。また，気をつけていないと答えた11人のうち10人が気をつけるようになったと答えている。

しかし，１人の児童に関しては，安全に対する意識の高まりが不十分なため，養護教諭等とティームティーチングを図るなど具体的な手だてが必要だといえる。

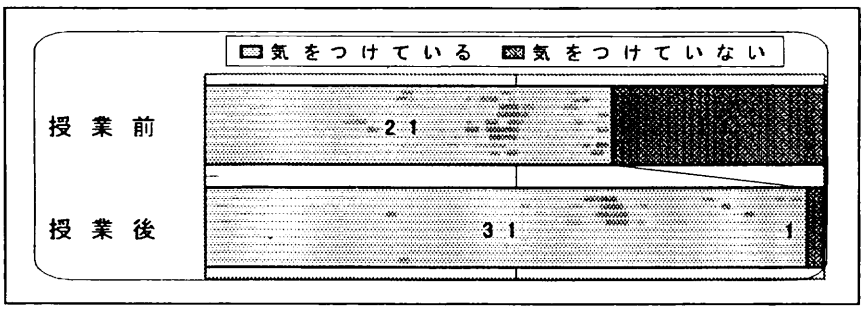


図８　けがをしないように生活の中で気をつけているか（32人対象）

(2) 校内の安全に気をつけているか

学校内の安全

気をつけている→22人

気をつけるようになった→7人

図９のグラフは，学校内の安全に気をつけているかの質問を授業前と授業後を比較した結果である。授業前に気をつけていると答えた児童は22人で，授業後も全員が校内の安全に気をつけている。一方，授業前に気をつけていないと答えた10人のうち７人が気をつけるようになったと答えている。学級の児童は，日常から朝の会で安全に過ごすための目標の設定と帰りの会での振り返りをしていることからも校内の安全に気をつけるようになったと思われる。

また，学習カードには「３年生の子とぶつかりそうになったので，気をつけようと思った。」「階段で転びそうになったので，気をつけたい。」などの記述があることから廊下の歩き方や安全な階段の昇り降りに注意を払っている様子がうかがえる。

しかし，気をつけていないと答えている児童が３人いることから，さらに，教育活動全体を通じての安全教育の充実を図る必要があるといえる。

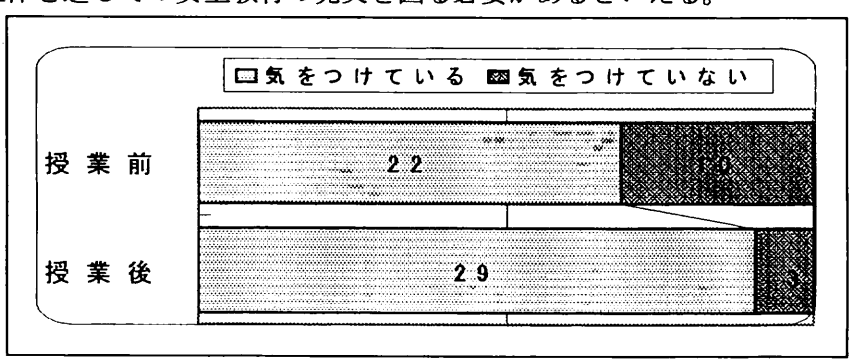


図９　校内の安全に気をつけているか（32人対象）

(3) 保健の学習が生活の中で役立っているか

生活の中に生かす

図10のグラフは，保健の学習が実際に生活の中で役立っているのかを授業前と授業後で比較したものである。授業前では，28人と比較的に高い水準になっている。授業後では，31人の児童が，けがの防止の授業で学んだことやけがの手当ての仕方を実習したことでこれからの生活に生かしていきたいと答えている。このことから，保健の学習が児童の意識の中で生きて働いていることがわかる。

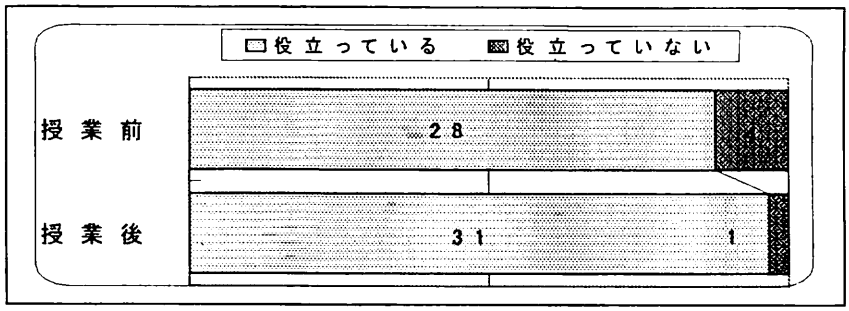


図 10　保健の学習が生活の中で役立っているか（32 人対象）

安全な生活を営む重要性

児童たちは，課題解決的な学習で実践的に理解し，横断的な学習を通してけがの防止で学んできたことを学校生活の中に生かし始めている。また，他学年（低学年）に発信する計画もしていることから，安全な生活を営む重要性に気づき，実践化に向けて取り組んでいる。

このように，実践的な態度も育ってきたため，安全な生活を営もうとする児童の育成を図ることができたといえる。

Ⅵ　研究の成果と今後の課題

1　研究の成果

(1)　児童は，学習カードを活用した課題解決的な学習で，自己の行動課題を認識し，課題を解決したことで，保健学習「けがの防止」の単元を実践的に理解することができた（Ⅴ－１）。

(2)　学校での日常生活・学活・道徳等と連携した横断的な学習をしたことで実践的な態度を育てることができた（Ⅴ－２）。

2　今後の課題

(1)　けがの原因と防ぎ方について理解が不十分な児童への個に応じたきめ細かな指導の工夫が必要である（Ⅴ－１－(3)）。

(2)　安全に対する意識の高まりが不十分な児童に対して養護教諭等とティームティーチングを図るなどの具体的な手だてが必要である（Ⅴ－２－(1)）。

(3)「校内の安全」への意識が薄い児童に対する教育活動全体を通した安全教育の更なる充実が必要である（Ⅴ－２－(2)）。

《おもな参考文献》

日本学校保健会　『小学校保健学習の指導と評価』　大東印刷工業　2004 年

杉山重利・高橋健夫・野津有司【編】　『新学習指導要領 Q&A 体育編』　教育出版　1999 年

文部省　『小学校学習指導要領解説　体育編』　2001 年

文部科学省　『生きる力をはぐくむ学校での安全教育』　2001 年